



聞き流すだけではダメ

## Lecture 1

---

**普通のリスニングは今日から禁止！**

**-確実に英語が上達する人はコレを手にする-**

平山：はい、皆さん、こんにちは。

藤永：こんにちは。

平山：MCの平山みゆきです。そして、

藤永：英語講師の藤永です。今回英語に関してレクチャーをさせていただきます。  
よろしくお願いします。

平山：よろしくお願いします。

藤永：これ、ケンブリッジ大学ですね。

平山：そうなんです。私の母校でございます。

藤永：ねえ。

平山：はい。イギリスのロンドンから北に 1 時間ぐらいのところにあるんですけど、今映ってるのがこれ、トリニティカレッジというカレッジで。

藤永：なんか全然訳のわかんない情報ですけど（笑）まあすごいですねえ。

平山：ええ。本当にきれいな、世界でも多分一番、二番目ぐらいに古い大学と言われておりました。

藤永：あっ、そうなんですね。へえ。

平山：はい。今ご覧いただいているカレッジも恐らく 700 年とか 800 年ぐらい前からある建物なんですよ。

藤永：あっ、そうなんですねえ。じゃあもう、動画 1 話終了ということでありがとう・・・（笑）

平山：まだ終わってないです（笑）

藤永：終わってないですね。

平山：皆さん、終わってないですからね。

藤永：いやあ、でも、すごい、すごい。そういう優秀なところを卒業されて。

平山：あっ、いえいえ。

藤永：本当に助かります、今回 MC していただき、よろしくお願いします。

平山：よろしくお願いします。楽しみにしております。さあ、これから無料で何度英語を勉強しても上達しなかった人、たくさんいらっしゃると思うんですよ。

それから勉強が苦手でなかなか継続して続けられないっていう方、悩んでいらっしゃる方、まさに今ご覧いただいている皆さん方だと思うんですけども、今度こそ英語をスラスラ聞けて話せるようになりたいという方々に向けて、これまで英語をスラスラと話せるようになった方を毎年輩出をしております藤永式英語習得メソッドというのをご紹介してまいりたいと思います。

最後には、日本人の英語力を急速に高めるコツが誰でも難なく学べるように集約されました、この藤永式の独自のトレーニング手法というのを皆さんに簡単にご紹介しちゃいますので、ぜひ楽しみにしててください！

藤永：ぜひ楽しみに！はい。

平山：さて、早速ですけども、藤永先生はもうこれまで英語が本当に苦手でなかなか上手くできなかったとか、本当初心者のレベルをいつまでたっても卒業

できない、そんな方々を急にこう英語ができる人に変身させてしまう、そんなプロフェッショナルであるというふうにお伺いしておりますけれども、  
どういった活動を？

藤永：そうですね。

基本的に会社さん向けの、今で言うと TOEIC の講師だったり、元同僚を英語をできるようにしたり、もちろん書籍だったり教材を通じて英語を習得したいっていう方に、これまでとはちょっと日本の英語教育とは違う切り口というか、私が実際にやってきた方法って言ったほうが一番早いんですけど、それで習得をしていただいているというかたちですね。

平山：なるほど。これまでたくさんのご本やたくさん英語教材も作られてきて、  
いろんな英語の指導のシーンでも立ち会われてこられたという先生なんですけれども、  
実際にこの先生のメソッドを実践された方ってもうすごい変化が起こるんですよ。

藤永：それが、私自身もそれがモチベーションになってますね。やっぱり皆さんも  
そうだと思うんですけど、挫折された方、英語が苦手な方、もうほとんどだ  
と思うんですよ。私もそうだったように。

でもね、それっていうのはやっぱり義務教育、英語の義務教育が原因だと僕は  
思ってるんですよ。だから英語が私は不得意ではなくて、違う方法でやれば誰  
だって上手くなるんですよっていうことを伝えたいですね。

平山：はい。にしても、TOEIC の一発満点っていうのはすごくないですか、皆さん。  
すごいですね。

藤永：いや、でもそれって、出版社から本を出したいから取ってくれって言われた  
だけなんですよね。もう、だから何も勉強しないです。だから、もちろん  
TOEIC を企業さんに教えるようになって、知らないと教えられないですけど、  
それまでは受験をする時に、「それって面談のテストがあるんですか」とか、  
そういうのを聞いたぐらいなので、全く知らずにやりました、構成も知らな  
かった。

で、最後のリーディングがあるんですけど、20 分ほど時間が余ってしまって、  
あまりにも簡単すぎて。  
余ってしまって何をやったかと言うとマークシートがあるじゃないですか。

平山：はい、ありますね。

藤永：あのマークシート、埋めていくんですけど、多分僕はその受験で日本一マー  
クシートがきれいに書けたと思ってます。

平山：（笑）

藤永：ものすごくきれいです。

平山：マークシートの書き方が、

藤永：もうあまりにも暇で。

平山：なるほど、はい。

藤永：そう。そう自負してます。

平山：はい、そっちに（笑）なるほど。

藤永：そっち、それも日本一だと思って、ええ（笑）

平山：いやいや。

藤永：そうですねえ。

だから TOEIC をやっぱりいろいろ何回も受けて、TOEIC の講師っていっぱいいらっしやると思うんですよ、今。英会話教室とかにもいると思うんですけど、恐らく一発で満点を取ったっていう方はあんまりいらっしやらないんじゃないかなと思いますね。

平山：いらっしやらないと思います、本当に。もともとじゃあ先生は割と英語がお得意ではあったわけですね。

藤永：全然ですよ。

平山：あっ、そうなんですか。へえ。

藤永：もう野球バカです。もうずっと野球ばかりやって、筋トレやって、もう赤点の毎日ですよ。

平山：そうなんですか（笑）

藤永：でも最後ね、僕、未だに覚えてるのが卒業する時に追試ってあるじゃないですか。多分経験されたことないと思います、平山さん（笑）あるんですよ。卒業できるかできないかの。もうあまりにも答えられないから、先生が回ってきて僕に答えを全部教えてくれました。

平山：（笑）

藤永：「これ、これ、これ」とかってやって。

平山：そんなに？

藤永：そうなんです。だから、もしこの動画を見ていらっしゃる方の中に僕の元先生がいたらびっくりすると思います。

平山：はあ、「藤永、お前。今こんなことやってるんだ？」って、

藤永：そう。「何なんだ？」と。

平山：「あの藤永が？」みたいな（笑）

藤永：「あの藤永が？」と。「剃り込み入れてた藤永が？」と、

平山：そうなんですか（笑）

藤永：本当、ビーバップの、まあビーバップってわかりますかねえ。

平山：いや、ちょっと時代を感じる、はい。

藤永：いやいや、もう時代を感じますけどね、はい。

平山：ええ、なるほど。そうか、そうか。そんな藤永先生が今やこのようになられたというわけですけど。

藤永：そうですね。

平山：しかもね、先生、すごい私の周りにもたくさんいるんですけども、英語をこれまでも上手になりたいんです。でも皆さん、英会話スクール通ったり、学校でももちろんやったり、いろいろとやられてらっしゃいますよね。でもできなくて、もういい加減英語に対してなんかもうアレルギーみたいになっちゃった、

藤永：アレルギーですね、そうなんですよ。

平山：そういう方がこれまでたくさん先生のところに駆け込んで、

藤永：もうほとんどそうだと思うんですよ。

平山：これ、ほとんどそうですか。

藤永：そうです。もう皆さん、思うと思うんですよ。著名人の何々大学の教授が書いた本とかを見たりとか、そのメソッドをやったり。でもね、あの人たちは英語が元々できていますから。

平山：なるほど。

藤永：だからそういう方々たちに聞いても多分苦しみはわからないと思います。

なので、僕のところに最後に来て、それでハッピーエンドで笑顔で英語を習得していく方がほとんどなので、じゃあ何が違うのかと言うと、日本の教育というのはもちろん目から入りますよね。視覚から入っての習得になってくる。

平山：なるほど。教科書読んで、うん。

藤永：はい。で、そこは私のメソッドは全くさせません。

平山：なるほど、はい。

藤永：基本的に耳から入れるっていう、

平山：耳から？

藤永：そうです。すべてが耳から。

これね、私も皆さんと同じなんですけど、おそらく、皆さんと同じように単語を暗記したりとか、文法を勉強したりとか、なんか英字新聞を見てまた調べたり辞書を引いたりとかをやってきたんです。やったんですけど、全然習得できない。できないんですね。

平山：できないですねえ。

藤永：多分その方法しか皆さん、知らないと思います。それと、もう一つあるのは今おっしゃいました、英会話学校に行こうとするんです、皆さん、すぐ。

平山：うん、それ、基本ですよ。

藤永：基本ですもんね。多分皆さんもそうだと思います。英会話学校に行けば、留学すれば、

平山：うん。しゃべれるようになる。

藤永：もう英語は絶対しゃべれるようになる。根本的に違うのが、英会話学校に行ったらまずアウトプットをさせるじゃないですか。

平山：アウトプットというと？

藤永：話させるってことですよ。

平山：ああ、なるほど。はい。

藤永：英語には必ず、何でもそうです、日本語もそうですけど、赤ちゃんのうちはしゃべれないですよ。英語だって一緒です。まずは聞くこと。まずこれが

主体、一番最初に大事なステップなんですよね。ただ、聞くんですけど、赤ちゃんとかって理解できないじゃないですか。でも聞いてますよね。

平山：聞いてます。

藤永：言語習得には必ず必要なのはサイレント・ピリオドって言って、黙ってる期間ってというのがものすごく必要なんですよ。

平山：サイレント・ピリオド？

藤永：そうです。もうこれがキーポイントです。

よく今お子さんにも大人の人たちが自分の子どもに英会話学校行かせたりしてるんですけど、帰ってきて何を言うかという、「ちゃんとしゃべれた？」と聞いたりするんですよ。

もうね、それがプレッシャーなんです。全く自分たちが感じたことを子どもにさせてるんですよ。じゃなくて、しっかりとまず聞くこと。でも聞くことにはものすごくコツがそこにはあるんですけど、それを私は自分の生徒さんとかには教えています。

平山：なるほど。そういうことなんですね。さあ、ということでここから本題、普通のリスニングは今日から禁止！

藤永：そうです。

平山：確実に英語上達する人はこれを手にするということでございまして、今先生がおっしゃいましたサイレント・ピリオド、そんなところも取り入れながらの習得方法ということなんですけれども、原因はじゃあとにかくアウトプットからのスタートはNGであると。

藤永：そうですね。

平山：最初は耳から。

藤永：そうです。

平山：で、英語を流して聞いてらっしゃるという方も、でも今ご覧になってる方の中でいらっしゃると思うんですよ。

藤永：うん、そうなんですよ。

平山：「いや、自分は英語をリスニングやっています。学校の行き帰りや通勤の行き帰りで聞いてます。先生、その方法やっていますよ」って言う方に対しては？

藤永：そこが要するに聞き流すだけではダメっていうことを言いたいんですね。必ず意識することが必要だって。私がこれ言ってるんだけど、意識的ヒアリング。

平山：意識的ヒアリング、はい。

藤永：そうです。

聞き流すっていうのはボケッと音楽を聞いている感じですよ。でも、英語の音楽を聞いていて上手くならないですよ、絶対に。

平山：確かに、うん。

藤永：じゃあペラペラになるかって、絶対ならないです。

それと全く同じなんです。必ず注意するところがある。じゃあどういふところを意識的にヒアリングするのかっていうと、ちょっとホワイトボードを持って来ます。

藤永：まず、その一つ目の意識的ヒアリングなんですけど、どこに注意するかっていうと、まず日本語の形ですね。日本語の語順って私、言っているんですけど、たとえば「私は行きませんでした」というのがあったとします。

基本的に SOV っていう文型、これが日本語と言われてます。まあそれを書きましたね。まずこれ、日本語ですね。で、英語だと、I did not go という形になって、このあとに SOV っていうこの O っていうのは object、目的語だったり、何々へとか何々をとかってことですね。で、じゃあこれ、school にしましょう。「私は学校へ」としましょう。

「学校へ行きませんでした」とした時に、英語の場合は SVO として、主語が来て動詞が来て目的語が来る。「私」これ、動詞ですね。で、目的。こうなったり、うしろのものになるんですけど、全くこの語順が違うんですよ。

要するに何を言いたいかという、日本語は最後に行かないと「私は学校へ行きました」なのか、「行く予定です」とか、要するにこれが未来なのか、これが過去なのかってことですね。

最後まで聞かないとわからないんです。

でも英語は、まずこの 3 単語か 4 単語ぐらいで、I did not go、「行きませんでした」っていうのがわかるんですね。

要するに最後より、日本語は最後に重要な情報がある。でも英語は最初に重要な情報がある。ここを意識的に聞かないと、聞き流すだけではこの文型、SOV という文型がもう身に染みえていますから、日本語。ずっと触れてきてますから。それを SVO にしてあげる必要があるんです。



これが大事だということですね。ちょっと字が汚くて申し訳ないです。ただ言いたいのはそうです。SOV から SVO、この英語の文型に意識的にここを聞いていくことが重要だということですね。

平山：なるほど。それが一つ目の意識的ヒアリングが大事なんですよという、先生が先ほどおっしゃっていたことですね。

藤永：そうですね、はい。しっかりと意識をしましょうと。これは聞き流すだけでは多分ずっともうこの文型がずっと頭の中にある中で、

平山：うん、そりゃそうですよね。

藤永：ずっとずっとやってる、

平山：子どもの時からもうそれでしゃべってきてますからね。

藤永：そうです、そうです。

だからそこが非常に重要なので、それを皆さんがちょっとまだ多分気づいてないことですね。「どこに注意して聞いたらいいの?」、頭です。まずここが非常に大事だということですね。

平山：うん。もう意識的にそこ、頭を変換してかなくちゃいけないということ。

藤永：そうです、そうです。はい。

平山：じゃあ、二つ目の先生、ポイントなんですけれども、二つ目はどういったことになりますか?

藤永：リズム感です。

平山：リズム感?

藤永：これ、英語独特のリズム感というのがあるんですね。英語というのとはこんな感じのリズム。たとえば、日本語だと「私は学校へ行きませんでした」

平山：平板ですよ。

藤永：そうですね、うん。英語というのがこんな感じに聞こえます。I didn't go to school yesterday.みたいな形で、

平山：なるべくイントネーションがいろいろ、

藤永：そうです、そうです。これも一つのリズムなんですけど、もう一つ大事なのがあって、実は周波数ですね。

平山：周波数？はい。

藤永：はい。たとえば、周波数、ヘルツで表記するんですが、日本語、これ実は  
100 から 1,500 ヘルツ、

平山：100 から 1,500？

藤永：1,500 ヘルツと言われています。そして英語、

平山：違うんですか？

藤永：どれくらいだと思います？

平山：ええっ、

藤永：これが全く違うんですね。2,000 から 12,000 と言われる。

平山：ええっ、全然違いますね、先生。

藤永：これね、全く交わってないです。

平山：でも周波数って、ほら、よくイルカとか、

藤永：イルカ、そうなんですよ。

平山：なんか鳥とかの鳴き声で、

藤永：あれ、イルカってどれくらいでしたっけ？あっ、イルカってそうそう。  
80,000 なんですよ。

平山：80,000？

藤永：80,000 ヘルツ、要するにイルカの言っていることってわからないですよ。

平山：えっ、じゃあつまり日本語と英語もすごく違うから、

藤永：全然！要するに交わってないんです。多分ここにテロップが出てると思いま  
す、ここら辺に。

平山：（笑）ここ、ここ。

藤永：全く交わってないです。イルカなんてもう論外です。

平山：そうですよね。つまり英語を聞いても日本人の耳にはなかなか入ってきづら  
いものがあるってことですか。

藤永：そうなんです。もう入ってきづらいついていうか、もう宇宙語ですよ。だから聞けなくて当たり前なんですよ、皆さん。

平山：はあ、そうなんです。

藤永：だからこれを克服しないと絶対無理です。英語は聞けないです。いくらたっても映画を字幕なしでは見れないです。

平山：なるほど。じゃあ、実際その違う周波数って聞けるようになるんですか？

藤永：聞けます。これは克服する方法が実はあるんですよ。

それが意識的ヒアリングもそうなんですけど、あと一つ、実は大事なのがあって、イメージもものすごく大事なんです。

平山：イメージ？

藤永：そうです。私が先ほど申し上げた英語の義務教育、視覚からすべて勉強しています。

平山：はい、教科書を読んで、

藤永：そう。筆記体を書きなさい。私、筆記体、未だに書けないですから。

平山：あっ、そうですか（笑）

藤永：全然わかんない。

平山：本当ですか、先生。

藤永：だって義務教育、受けてないですからね。全然わかりません。

平山：なるほど、剃り込みが？

藤永：そう、もう剃り込みがこの辺に（笑）いや、本当書けないんですよ。

要するに単語帳を書きなさいとか、読み上げなさいとか、そういうことばかりやってきたから、英語を聞いた時に文字化される方ってものすごく多いんですよ。文字が浮かんでくる方。

平山：そうですね。

藤永：そうですね、単語の文字、スペルだったりとか、

平山：うん。だと思います。まず、

藤永：スペルも僕、わからないですから。

平山：あっ、そうですか。

藤永：未だにスペルチェック、すべてにかけます。もう、ただ日本人のほうが、多分私、普通の日本人の方のほうが私より絶対スペル書けると思います。

平山：いや、でも、だって先生、ベラベラ。

藤永：関係ないですね。全然関係ないです。スペルチェックがあります（笑）

平山：（笑）

藤永：それはそこに頼ればいいんです。

一番大事なことは、どうやってじゃあ聞くのか。日本語だってそうじゃないですか。じゃあ、私が平山さんに電話で話しをしたとしましょう。

「今さあ、ちょっとテレビを見ながらソファーに寝っころがって見てるわ〜」

と言った時に、全く日本語の文字とか出てこないでしょう？

ソファーという文字だったり、テレビという文字だったり。でもそれを英語で聞いた時には実は文字が出てくる方が、もう TV という文字が出て、sofa という文字が出てきてとか。

平山：なるほど。

藤永：だから、その時に自分なりのイメージをすることがものすごく大事なんですね。日本語でやってるように英語もイメージしていきましょうと。これが要するに、今言った三つ目のポイント、これも非常に大事なんです。

だから、ただ単純に聞き流すだけ、もう辞書を引いて単語を調べて、そんなもんいくらたっただって、やっぱり聞き取れません。英語も上達しないということですね。

平山：確かにしゃべる時はまず文章を作って、頭の中で考えてからしゃべるとか、そういう方、やっぱり多いですね。

藤永：もう聞く時もそうです。文法考えて、知ってる単語で頭が止まったりとかもあると思うんですよ。あとは聞き逃したりとか経験あると思うんですよ。文法を常に頭で考えたりとかあると思うので、そういうところを克服していく、これが一番大事なことですね。

平山：克服したいのはもうみんな克服したいと思うんです。

藤永：そうですね。

平山：でもね、それがなかなかできないんですよね。

藤永：もうその悩み、そういうなかなかできない人たちが僕に最後に頼ってくるわけですから。

平山：あっ、なるほど。駆け込み寺？

藤永：駆け込み寺です。もうね、元ヤンだろうが来るわけです（笑）

平山：いやいや。

藤永：野球を当時やってましたからね、はい。

平山：なるほど。

藤永：私も皆さんと、一番最初に言ったように、皆さんと同じように単語を調べたり、昔はやっぱり知らない単語で耳が止まったりしてたんです。

だからそれを変える方法というのがやっぱりあるので、それを皆さんにご紹介をしたいなと思います。

平山：はい。じゃあ先生、その辺りはちょっとお時間も長くなってまいりましたので、

藤永：そう。すいません、ごめんなさい。

平山：次回にということでございまして、とっておきの方法を皆さんにお伝えしてまいりますので、

藤永：本当楽しみにしてください！

平山：楽しみにしててください！

藤永：はい。じゃあ次回もケンブリッジからにしましょうか。

平山：にしますか。じゃあ先生の母校でも（笑）

藤永：私の母校？

平山：（笑）

藤永：じゃあ、ちょっと次回もどこから登場するかわからないですけど、ぜひそれも楽しみにしてほしいなと思います。

平山：楽しみにしてください！  
ということで今回最後までお聞きをいただきまして、

藤永：ありがとうございます。

平山：ありがとうございます。

藤永：ちょっと長くなりまして申し訳ないです。しゃべりすぎなんで、申し訳ないです。

平山：（笑）また次回！

藤永：じゃあ、またまた次回！

\*\*\*\*\*

次回、第2話では、

## 『たったコレだけ!? 日本人の99%が知らなかった英語の始め方』

をお伝えします。超簡単な具体的な方法で、始めから笑えます！  
それでは、お楽しみに!!

\*\*\*\*\*

### 【藤永丈司プロフィール】

何の対策もせずに初受験で TOEIC990(満点)、英検1級取得。小学校英語指導者資格、ニンテンドー3DS ソフト「TOEIC テスト超速トレーニング」スペシャルアドバイザー、芸能人への個別指導、英会話・TOEIC 講座、企業研修、他多数。

自身の受験英語への疑問や登校拒否といった苦い体験から、文法や暗記などといった従来の学習を180度違う角度から切りこみ、短期間で「英語回路」を身につけるメカニズムを発見。10年以上にわたる海外生活から、外国人の英語習得の早さと相対する日本人の遅さの違いを同時に徹底的に解説・研究を繰り返すことで、日本人へ「英語回路」を植付ける仕組みを解明。

日本人には日本人独自の習得方法があることを見出し、母国語を自然に覚えるメカニズムに独自言語習得法と本来人間が持っている爆発的な潜在能力を融合する事でその効果を確実なものとしている。

主な著書にベストセラーシリーズ累計10万部『「超速」英語プログラム』『なぜ、留学生の99%は英語ができないのか?』他多数。現在、2020年までに5,000人のネイティブスピーカーを輩出し、英語を使って、世界で活躍できる日本人を後押しするビジョンに向けて、初心者も短期間でネイティブにする最短ステップをプログラム化し、多くの日本人に伝導している。